

モンゴリアンクラブ

No.32 2019/10/1
発行：鳥取県モンゴル中央県
親善協会

第13回モンゴル友好交流の翼で親善深める



モンゴル中央県県庁広場で交流歓迎式

2019年7月24日(水)から7月31日(水)までの8日間、第13回モンゴル友好交流の翼に、高校生1名を含む21名(県外1、添乗員1含む)が参加し、モンゴル中央県の方々との交流を楽しみ、南ゴビの大自然を満喫しました。

今回は雨天が多く想定外の寒いモンゴルでしたが、日本語学級の子もたちやホストファミリーの方々、また、鳥取県への留学経験など、ゆかりのある方々と親しく交流することができ、心は熱く高揚する日々になりました。



県議会副議長が歓迎挨拶

ブマンブヤ副議長(写真左)を含む県議3名が歓迎。若手女性議員が活躍されているそうです。

ちなみに、副議長は白鵬関のいとこだそうです！

日本語学級の親子と綱引き

2チームに分かれて真剣勝負！



じゅげむ寿限無

暗記したじゅげむを
小学1年生が披露



モンゴル日本人材開発センター

図書室で日本語の教科書や図鑑、マニュアル本、絵本、コミックなどさまざまな分野の本が貸し出されていました。



鳥取県にゆかりのある方々が活躍！

旅程2日目7月25日には、鳥取県にゆかりのある方々との交流会で、その活躍ぶりに感動しました。



メンドストレン元法務部長ご夫妻

彼は、中央病院への受診などで3回来県。モンゴル中央県の法務部長まで勤められ、退職後の現在は弁護士をしておられるそうです。奥様も県警職員として更正に関わる業務をされ、45歳で退職されています。モンゴルでは子どもの数で退職年齢が早まるそうです。

20年ぶりにモンゴルに帰省したポルドバートルさん

鳥取県のモンゴル国際交流員2人目のバトアムガラさんの兄。ご自身も1997年に鳥取県庁で1年間の行政研修を受け、日本語力ゼロから3ヶ月でマスター、今回も日本語で自己紹介されました。現在はサンフランシスコで、得意のロシア語で取引の仕事をしているそうです。20年ぶりの母国は、急激な都市化でモンゴルじゃないみたいと話されました。



修学支援金（モンゴル岩塩の収益）で勉学中の双子ちゃん

二人ともモンゴル国立大学医学部3年生になるところです。姉（日本名 ゆうこ）は伝統医学の鍼・灸などの専門医をめざし、妹（日本名 えみこ）は歯科を専攻、日本の大学院で高度医療を学びたいそうです。それぞれアルバイトもしながらがんばっています。

日本語学級の教師 オトゴンチメグ先生ご夫妻

昨年の夏は青少年6名を引率して来県。鳥取の自然の美しさに感動し、また来県したいそうですが、その間ご主人は3人のお子さんと留守番。家事や子守は大変だった！と。ご主人には今回、会長の車移動を手伝っていただきました。オトゴ先生は10月に第4子をご出産予定（産休中は別の先生が担当）。



日本語学級を手伝っている JICAの相馬さん

美顔エステ指導をしておられる茨城県出身の方です。もう一人、JICAのバレーボールの指導をされている早坂さんと2人で日本語学級の子どもの学習を手伝っていただいています。相馬さんには今回、子どもたちと一緒にウランバートル市内の施設見学や買い物の手伝いをしていただきました。

日本への留学を希望しているサンダガ（サンダグドルジ）くん（7/30に交流）

小学5年の時、日本語体験事業で鳥取県に来たことから、友好交流の翼のたびにホストファミリーや訪問団に会いに来てくれ、日本語で交流したり、買い物を手伝ってくれます。現在、モンゴル国立大学で再生エネルギーを専攻していますが、小学5年で来県した時の弁論大会で既に、地球の空気と上水を保護する活動の夢を発表していました。今後、日本の大学に留学して研究することを希望しているそうです。

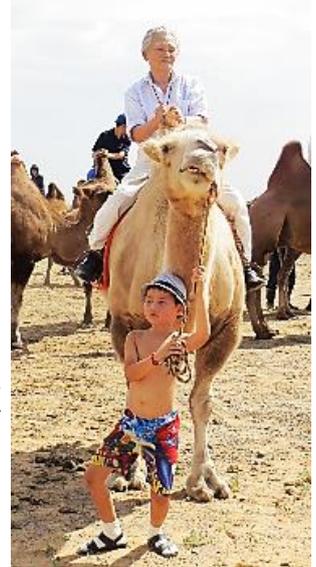


た び の ア ル バ ム



日本人捕虜墓地跡に植樹

ダンバダルジャーの丘に年々、住宅が迫っています。慰霊碑では般若心経を、供養塔では日本の童謡をささげました。チャチャグナーの木5本を植樹。



南ゴビ

ラクダを引くのは7歳の少年



モンゴル民族音楽コンサート

伝統の民族楽器の生演奏をかぶりつきで満



ヨリーンアム溪谷

強風の溪でエーデルワイスやナキウサギも発見



北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット美術作品展見学

今年はモンゴルでサミット開催中でした。鳥取県を含む各地域の著名な書道家や彫刻家、画家などの作品に触れました。

第13回モンゴル友好交流の翼報告写真展を開催します。ぜひ、お越しください。

10月 7日(月) 13時～10月11日(金) 正午 とりぎん文化会館リネア
11月13日(水) 13時～11月19日(火) 正午 淀江公民館ロビー
11月22日(金) 13時～11月30日(土) 正午 湯梨浜町中央公民館

グラウンド・ゴルフで国際交流盛ん

湯梨浜町(旧泊村)発祥のグラウンド・ゴルフ(以下、GG)は1982年に誰でも気軽にできる生涯スポーツとして誕生して以来、日本国内に急速に普及、2014年からは海外への普及を図り、湯梨浜町「潮風の丘」で「GG国際大会 YURIHAMA」が開催されています。モンゴルは2016年から毎年参加、自国でも「国際GG親善大会」を3年前から開催しています。



鳥取県は2021年に日本で開催されるワールドマスタースゲームズにGGを湯梨浜町に誘致。湯梨浜町とともに諸外国への普及を図っています。今年6月にウランバートルで大会が開催された際、県からも参加。この時、モンゴル中央県のバトバヤルさん(元鳥取県国際交流員)が訪れ、鳥取県と中央県の民間交流の実状を話されたそうです。

平成31年度(令和元年度)総会を開催

4月27日(土)、セントパレス倉吉で開催。会員93名中、実出席25名、委任状出席43名。

平成30年度事業報告、決算報告及び平成31年度事業計画、予算ともに承認されました。



平成31年度鳥取県モンゴル中央県親善協会定期



総会終了後、前国際交流員のビャンバさんの夫とモンゴルから来県されているご両親が懇親の場に参加され、交流できました。



モンゴル日本語学級修了後、昨年4月に鳥取大学の留学生として入学したツァガンオールさんが学生生活の様子を話し、会員と交流しました。